

# 混ぜるとごみ。分ければ資源！



ごみの実態 [R1▶R5]	
収集・運搬・処理費用 (年間)	約3.6億円 ▶ 約3.8億円
可燃ごみ排出量 (年間)	約5,200t ▶ 約4,800t
一人当たりの可燃ごみ排出量 (年間)	約314kg ▶ 約315kg
リサイクル率 (年間)	約14.9% ▶ 約15.1%

※高知県リサイクル率 約20.3% (R3)

毎日の生活の中で出てくるごみ。あなたが集積所へ出したそのごみ袋。本当にその中身を「全部ごみ」だと言えますか…。

ごみ問題は、今や誰もが知っている最も身近な社会問題です。四十万町では年間約3億8千万円の費用を投じて、約4,800tの可燃ごみを焼却処分しています。

その可燃ごみの中には、適切に分別すれば資源として再利用できるペットボトルや紙類などの資源ごみが混ざり込んでいます。

令和元年度と比較すると、人口が約1,400人減少している分、総体的なごみの排出量は減少していますが、1人当たりのごみの排出量やリサイクル率には大きな変化が見られません。これは私たちの「分別・減量」への意識や取り組みがここ数年、変わっていないことの表れなのかもしれません。

そこで今回の特集では、家庭から出されるごみが分別されていないことにより、どんな問題が生じているのか、現場取材から見えてきた事実をお伝えします。

## 便利な生活がごみを増やす？

近年、私たちを取り巻く生活環境は、あらゆる技術の発達により、便利な生活



を送れるようになりました。この技術の発達に伴い、過剰包装や使い捨て商品が多く出回るなど、市場にも変化が生じています。

私たちは、この利便さによっていつの間にか、物を大切にしなくなったり、すぐに新しい物に買い替えたり、必要以上に大量に物を購入したりしていません。

その結果、各家庭では物があふれ、必然的にごみの量が増えてしまっています。

## 大切な資源までごみにしないで！

ごみを出さないことは不可能ですが、ごみを資源に変えて、減らすことは可能です。

ごみは混ぜてしまえば、ただの「ごみ」。焼却されて灰になってしまいますが、適切に分別ができれば、「資源」として再利用でき、結果、可燃ごみは減少します。

しかし、多くの方がごみの分別を「面倒くさい」と感じているのも事実です。だからと言って、分別しなくいいことにはなりません。

誰かの面倒くさいは、別の誰かによって、「時間」と「手間」をかけて分別されています…。

皆さんの近所にあるごみ集積所で、黄色や赤色のステッカーが貼られたごみ袋を見たことはありませんか。

これは、分別のルールに従って、適正にごみが出されていなかったために、収集業者が回収できなかったごみです。

そのごみは、最終的には地域の区長やクリーンセンター銀河の職員などによって、全て手作業で分別されることとなります。

ごみは、あなたの家庭から出して終わりではありません。出されたごみには、その先があることを、私たち一人一人が意識しなければいけません。



## あなたは大丈夫!? / 収集と処理の両現場に聞いた「資源ごみ」の間違った出し方！

### NG 01. ペットボトルの中をきれいに洗っていない！

ペットボトルは、圧縮機でプレスした後、専門業者が回収に来るまで約3～4か月間保管されます。洗っていないと、その間に虫が湧いたり、悪臭の原因に…。



### NG 02. ペットボトルのキャップが付いたままに！

ペットボトル本体とキャップの素材は違います。そのため、品質の高いリサイクルを維持するためには分別が必須。現場では作業員が手作業で1個1個取り外す手間が生じています…。



### NG 03. 紙類を紙の種類ごとに分別していない！

紙類は、紙の種類ごとにひもで十字に縛ります。

- ①新聞紙 ②ダンボール ③紙パック ④本・雑誌

リサイクル業者が異なるため、混ぜていると作業員が全て手作業で仕分けすることに…。



### NG 04. 缶の中にガラスびん類が混ざっている！

作業員が選別する際に、ガラスびん類が混ざっていると大変危険です。



## あなたの面倒くさいが、火災事故やごみ処理の停止につながることも！

### 「とにかく、ごみはルールを守って出してください」

可燃ごみ以外のごみは、全て作業員が1袋ずつ開けて、中身を選別しています。しかし、バックカーで運び込まれる可燃ごみについては、そうもいきません。「少しだから」「面倒だから」といって、可燃ごみの中に電池類や金物類を混ぜ込まれてしまうと、取り除くことはできずそのまま焼却炉で燃焼されることとなります。

特にお子様のおもちゃやリモコンに使用されているリチウムイオン電池などは、少しの衝撃で発火する可能性があるため大変危険です。ごみピット内で火災が発生すれば、消火することは不可能とされています。また、金物類は燃焼しても燃え残るこ

とから、灰をコンベヤで搬出する際にその燃え残りが機械に引っ掛かり破損の原因となります。機械が破損し灰が搬出できなくなると、ごみを受け入れることもできません。

だからこそ、ごみ出しのルールは必ず守ってもらいたいです。



分別されずに燃え残った一輪車のタイヤや一斗缶など



このごみの正体は「面倒くさいの固まり」!?



クリーンセンター銀河 所長 青木 佑介さん